

第15回高知県木の文化賞

木造建築物及び木造建造物の部

大桶の家

所在地：南国市

- 発注者：中西 一洋
- 設計者：梅原佑司建築事務所 梅原 佑司
- 施工者：有限会社創栄工務店



高知県

施設の概要



この建物は、平成29年3月に竣工された、木造2階建て個人住宅であり、SWP(シングルウッドパネル)という県産材を使用した新しい建材を高知県内の住宅では初めて採用し、壁、2階の床組に使用しています。SWPには施主様の希望により、嶺北の杉を使用。このSWPを用いた空間が南の庭からウッドデッキテラス、リビングダイニングを通り、北の庭に抜けるような、まさに「木のトンネル」空間を実現しています。

また、「木造建築から木の文化を学ぶセミナー」と題して、本住宅の製材から加工、建築、そして完成までの工程を公開する試みを行い、

■完成時期:平成29年3月
使われる地域材がどのような経路、工程を経て住まいを形作っていくかということを全5回の連続セミナーを通して建築を学ぶ学生や一般の方に広く伝えました。施主様の「木の家の素晴らしさを伝えたい」という思いが形となった建物です。

選 評

- ・個人木造住宅に県産材のSWP(シングルウッドパネル)を使用するという新しい試みを評価する。
- ・木造の住宅として細部にまで新しい試みが見られ、木の文化を高める指向性が評価できる。
- ・個人住宅の完成までの工程をセミナーという形で、公開した点を評価する。建築主の思いを感じた。

